

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 ② (書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

文章を書く際には、前後の文や段落相互の関係に注意して、適切な語句や文を用いて表現することが大切になります。特に意見文等では、自分の考えが、効果的に分かりやすく読み手に伝わるように書く必要があります。本設問は、意見文の下書きを直した意図として適切な答えを選択する問題です。全国、県とほぼ同程度の正答率ですが、直前の文の根拠を明確にする語句「～からだ」の意図や働きを正しく捉えた文末表現にすること

(Aの解答) に比べて、前段落の文の具体例を示すために加筆した文の意図や働きを正しく捉えて言葉を加えること (Bの解答) に対する誤答が多かったと考えられます。「集合場所までどうやって来るの。」という会話文を入れることは、意見の根拠となる具体例を示し、より分かりやすく伝えるという効果を生み出しますが、そうした表現効果についての理解が不十分であると言えます。文章を書く際に、どのような表現をすれば分かりやすく効果的に読み手に伝わるかを意識して書くことに課題があると考えられます。

【意見文の下書き】

① SNS (ソーシャルネットワーク・キングサービス) などを活用し、インターネット上で文字を通したやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。

④からだ

② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで待ち合わせの相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの。」と書いたところ、「どうして行ってはダメなの。」という返信が来て、はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか。」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないように「いねいに書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。」

③ 集合場所までどうやって来るの。」と

⑤ 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

① 山田さんは、「意見文の下書き」を読み返し、④と⑤のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から5までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。

1 ①段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

2 ②段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。

3 ③段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。

4 直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。

5 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

⑥の解答

(2) 指導の改善・充実に向けて

普段の授業での意見文を書く場面では、自分の考えを相手により分かりやすく伝えるための文章を書く学習が行われています。しかし、「～から」が理由を明確にしている表現であること、会話の文を入れることが具体的な例を示す表現であることなど、「表現」と「効果」の関係を意識して書くことは少ないように思います。また、自分の用いた語句・文の表現が、どのような効果を生んでいるかを自分の文章を見返し、推敲する場面も余り取られていないのが現状です。

そこで、意見文などを書く学習では、次のことが大切になります。

- 伝えたい内容や伝える相手を明確にして、書く必要感のある場面や、効果的に分かりやすく伝えるためには、どのような表現がよいのかを相手の立場に立って考える場面の設定。
- 自分の考えを伝えたり印象づけたりする上で、語句や文などの表現がどのように働いているかを確かめるなどの学習活動として、読み手の立場に立ち、自分の書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、表現が自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、推敲する場面の設定。

また、その際はグループやペア等で、表現の効果や伝わりやすさについて、お互いに書いたものを読み合い、意見を出し合う等の学習も有効です。お互いに書いたものを読み合うことで、それぞれの表現の工夫やその効果を知り、自分の表現に役立てるとともに、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっていきます。

2 調査問題 3 四

(文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

「吾輩は猫である」の本のカバーに書かれている紹介を参考にしながら、「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、また、そのような接し方をどう思うかを尋ねた問題です。正答率は全国とほぼ同程度ですが、正答の条件を満たして回答できた生徒がおおむね5分の1にとどまったことから、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことについて、課題があると考えられます。

「吾輩」と「黒」の接し方と、その接し方についての自分の考えを書くことができましたが、文中から「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用していなかったり、適切に引用できていなかったりする誤答が約5割見られました。文章を読み、叙述を解釈・分析し、そこから自分の考えをもつ学びの手順が十分意識化されていないことに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

「読むこと」の学習においては、読む目的や意図を明確にすることが大切です。特に、文学的な文章を読むに当たっては、ただ単に内容を読み取るだけでなく、読み取ったことから、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていくことも必要です。

これまで、文学的文章の学習は、叙述から主人公の心情を読み取るだけで終わってしまうことが多かったように思います。このような学習を、叙述から主人公のものの見方や考え方を読み取り、それに対する自分の考えをもつ学習へ、更に自分の考えを発信していく学習へと改善していく必要があります。

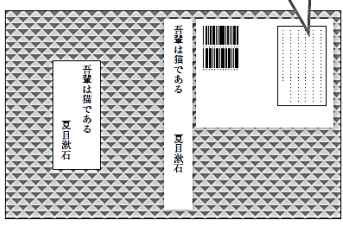
具体的には、学習の過程において、①主人公のものの見方や考え方が表れている表現を根拠に、②そこから主人公のものの見方や考え方を解釈・分析し、③それに対する自分の考えを構築していく。このような手順を意識して学習に取り組み、主人公のものの見方や考え方に照らして自分の考えを構築する場面を設けることで、文章を批判的に読む力が育っていきます。

更にその過程で理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりできるようにグループで討議する場面をもつことも有効です。改めて自分が文章をどのように捉えて解釈・分析したのかを振り返ることで、自分の考えをより確かなものにするよう指導していく必要があります。

このような学習により、生徒自らが、文章を読み、叙述を解釈・分析し、そこから自分の考えをもつ学びの手順を常に意識できるよう指導していきましょう。

3 次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている「紹介」と、「文章の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【紹介】
 中学教師の苦沙弥先生の家で暮らす猫「吾輩」から見れば、世の中は全くもって滑稽そのもの。周囲の様子を観察し、様々に評価する。ユ・モアあふれる長編小説である本作は、漱石が三十八歳のときに発表して以来、多くの読者に愛されてきた。今なお、多くの人の共感を呼ぶ名作。



四 「紹介」に~~~~線部「様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「文章の一部」から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしていることが分かるのかを書くこと。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書くこと。